

はしか

1999 年から 2005 年の間、「はしか」が原因による死亡件数は 60%減少。これは、国連が当初掲げた「(死亡件数の)50%削減」という目標を大きく上回り、その一因としてアフリカ地域における予想以上に死亡件数が減少したことがあげられます。

WHO(世界保健機関)の統計によると、1999 年に 87 万 3,000 人であったはしかによる死亡件数が、2005 年には 34 万 5000 人にまで減少し、中でもアフリカでの改善が著しく、50 万 6,000 人から 12 万 6,000 人(約 75%)にまで減少しました。

はしかによる死亡率を削減するための戦略により、死亡件数は劇的に削減されました。日常的な保健サービスの機会に、すべての乳幼児に対するはしかワクチンの投与を呼びかけるほか、全国的な予防接種キャンペーンを通じた 2 回目のはしかワクチンの投与、はしか検診、そしてビタミン A 補給を含む拡大ケアなどを行っています。2005 年、はしかが原因による死亡件数は推定 34 万 5,000 人(90%は 5 歳未満の子ども)ですが、その多くは深刻な下痢や肺炎、脳炎を同時に発症し、命を落としています。

はしかに関する基礎データ

- はしかによる死亡件数減少の主な要因は米国赤十字社、米国疾病管理予防センター(CDC)、国連基金、ユニセフ、WHO が協力し、2001 年より開始した「はしか対策キャンペーン(はしか・イニシアティブ)」である
- ユニセフと WHO は、はしかによる死亡件数が世界の 98%を占める 47 カ国を「重点国」とし、主に日常的な予防接種活動の改善と、はしかにかかった子どもの治療と検診の強化に努めた。また、補足的な予防接種活動(SIAs)ははしかによる死亡を予防するためにとくに効果的であった
- 開発途上国ではしかと診断された子どもは、24 時間おきにビタミン A 補給が 2 回必要である。はしかと診断された直後にビタミン A を摂取できれば、視力の障害や失明を予防できる。さらにビタミン A の補給ははしかによる死亡件数を 50%も削減する。
- はしかが原因による病気や死亡は予防接種によって簡単に予防できる。はしかワクチンは比較的安価で安全かつ効果的であり、予防接種にかかる費用は子どもひとりあたり 1 米ドル以下(ワクチン本体と器材および予防接種にかかる費用を含む)で、はしかワクチンの投与はほかの予防可能な病気のなかでももっとも費用対効果の高い手段のひとつである。

(2007 年 4 月)